

農業体験活動等の機会の付与（大学生との意見交換会）実施概要報告書 (食育プロジェクト「あしたのもと」大学生編)

山口地域センター

1. 開催日時・場所

平成25年2月9日 (土) 13:00~15:30
クラインガルテンおおとみ《農家樂》(山口市仁保)

2. 企画内容等

【企画名】食育プロジェクト「あしたのもと」大学生編

【趣旨】今後、食育の指導者となる大学生・短大生を中心に、「食」の前段にある自然や農業生産活動などの体験や意見交換会を通じて「食と農」への関心と理解の促進を図るきっかけづくりとする。

【プログラム内容】*講師・指導 NPO 法人やまぐち里山環境プロジェクト

①里山・里地の散策及び土づくり講習

里山・里地を観察しながら、農村の資源（食・エネルギー・環境等）に気づいたり、*「土を調べる」ことで畑の基礎となる「土づくり」の大切さや環境に循環させることなどに気づく講習を行う。

*土を調べる：pH や窒素・リン酸・カリを測定できるキッドにより、どんな土が作物を作るのに適している等、「土づくり」等を考えるきっかけづくりとする

②『食育プログラム』講習及び意見交換

「食育プログラム」を大学生が企画する中で「食を体験させる」技術やコツの講習及び意見交換を行う

3. 出席者

NPO 法人やまぐち里山プロジェクト 2名
山口県立大学サークル畠部所属大学生 5名
山口地域センター 3名 合計10名

4. 配布資料

- ・ 大学生向けリーフレット（局作成）
- ・ 米粉で料理がこんなに変わる（社団法人 米穀安定供給確保支援機構作成）
- ・ 男子食堂（マジごはん計画 by 農林水産省）
- ・ 食育の種（山口地域センター情報誌）

5. 概要

1 里山・里地の散策及び土づくり講習

(NPO 法人やまぐち里山環境プロジェクト代表嘉村氏)

*里山・里地の散策については、前日の天候により中止)

○安全でおいしい野菜をつくるためには、「良い土づくり」が大切。

○「良い土づくり」には、人間の病気でも、どんな症状であるのかということを知る必要があるのと同じで、まず土の状態を把握することが大切。

○土の状態を把握するには、土が酸性であるかアルカリ性にあるか (pHの値がどれくらいか) ということを

把握することが重要。pHというのは人間で言うと体温にあたる。

○また、窒素、リン酸、カリが偏ってしまうことにも注意が必要。特に窒素は、葉を作ったり成長を促進したりするものであるが、たくさん与えると虫もつきやすいし、病気も誘発しやすく、えぐみが残る等の影響がでてくる。人間でいうと生活習慣病にあたる。

○肥料でも、有機質肥料はゆっくり効く緩効性肥料。化学肥料は速効性で、カンフル剤や栄養剤に倣する。そういうことを理解し使いわけないと作物はうまく育たない。

○試薬を買って自分たちの畠部の土を調べてみよう。

2 『食育プログラム』講習及び意見交換

(NPO 法人やまぐち里山環境プロジェクト代表嘉村氏)

○基本は、土の上で太陽の光を浴びた安全でおいしい野菜等をつくり、それをいただくということが大切。命あるものをいただくということを理解し、将来社会で働く上で、子供たちや地域の人にも理解していただかなくてはいけない。

○「自分たちだけで活動する」ことも大事だが、人に喜びを与えるということ（社会貢献・地域貢献）が、これからみんなが社会に出てからもっとも大事で求められることになる。

○（注1）「あしたのもと」体験プログラム作成表を提示。)

プログラム名をつけ、いつ、誰を対象に、何ができる、必要経費、気をつけること等を5人で話し合いプログラム作成表を基に、畠部みんなで楽しめる1つのプログラムを作りたい。（夢でも可）

○一番大事なのは、何のためにやっているのかという『目的』で、最初につくること。テーマは目的があるからつくることができる。また、楽しくなるようなテーマを作成しよう。

○食育というのはお祭りではないということをしっかり理解すること。（イベントという言葉を使と一過性のお祭り感覚となってしまうので「体験学習」というな言い方を使ってほしい。）

(畠部) * 畠部部員が考えた「食育プログラム」を発表

プログラムの名前はまだ決定していないが、1年を通して、畠部に入ってきた新入生に畠部の活動に対する興味や関心を引きつけながら、野菜のおいしさを知ってもらおうということを目的として企画した。食堂前でダッヂオーブンを使って野菜の料理をすることで畠部でない人にも関心を持ってもらえることにもつながっていく。活動にあたって、学校の許可の必要性や野菜の量の確保のために、良い土づくりをし、良い野菜を作りたい。まずは、みんなで集まり話し合うことが必要である。

(NPO 法人やまぐち里山環境プロジェクト代表嘉村氏)

○一番大事なのは、何のためにやるのかという『目的』で、目的をきちんと押さえてみんなで話し合い、それを誰かがきっちりまとめて情報を共有化して、何かをやれば良いものができる。

○ダッヂオーブンやアイデアを貸したり、専門的なアドバイス等私たちがいくらでもお手伝いする。

○もう1回みんなでこのプログラムを話し合って、今年の秋の学祭に間に合うように何かやってみてはどうか。

○口は命の源であり農業は国の礎である。食べるものがどこでどのように作られているかを理解することで食べ方も変わるし、感謝の気持ちや態度が身につく。

○私たちが今持っているような体験、経験、知恵、知識というものを子どもたちに残してあげることが大事。ものを作り残してあげるのはいつでもできるけど、みんなが持っている感性を子どもたちに伝えてあげるということが本当は大事であり、それを繰り返すからいろんなことが受け継がれ、伝統ができていき、日本いうものが良くなっていく。「心」を作らないといけない。

(畠部)

○今日は、部員の思いや、やりたいことが把握できてよかったです。この体験を畠部に持ち帰り、もう一度畠部のあり方から考えていく。

3 まとめ

(米田総括農畜産安全管理官)

特に野菜の好きな仲間を育て、増やしていきたいと思っていることが非常に印象に残った。畠部の中でこのプログラムを今一度練っていただき、より良いものを作っていただきたい。相談には私たちもいくらでも乗りたい。今後も畠部の活動が継続され、大学の中でも広まっていくことにより、日本の農業が良くなるようになつていけばと感じている。

6. その他

【写 真】



*あいさつ（米田総括農畜産安全管理官）
「大学では、学べないことを学んで帰ってほしい」



*自己紹介「土づくりについて学んで
昨年より更に良い野菜を！」

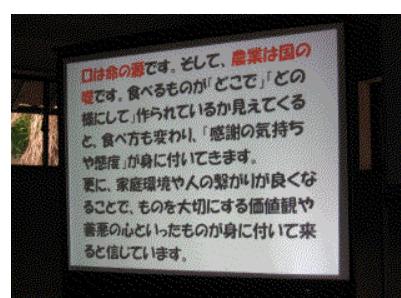


*土づくり講習（NPO 法人やまぐち里山環境プロジェクト指導）
簡易土壤診断キットを使って、pHと硝酸体窒素等を測ります



←*ペットボトル稻を説明
「畠部でもやってみたい」という声も

*食育プログラム講習会→





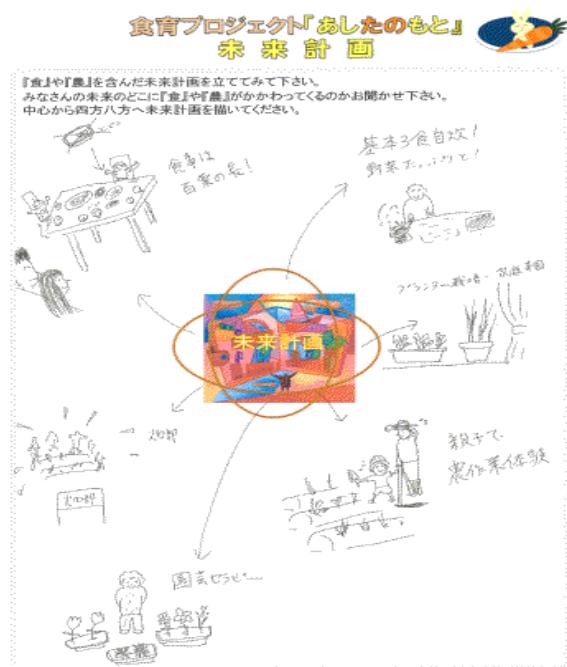
プログラム内容	食堂前でダッヂオーブンで野菜を調理して配る
いつやる? 春?夏?昼?夜?	まずは、一年通して
誰に? 	新入生
何を持ち帰ってもらう? (なんでも)	<ul style="list-style-type: none"> 野菜はおいしいという気持ち 畑部に対する興味関心
気をつけることは? 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の許可をとる 学生などでは衛生許可 土づくり→良い野菜をつくる みんなできちんと集まる (情報共有・合う時間調整) ひとりで突っ走らないようにする

*注1)「あしたのもと」体験プログラム作成表

食育プログラムづくり

(事後アンケートから)

- 「食のありがたさ、大切さ、また「食べる」までに様々な伝統や努力があるということを再認識させていただいた。それら全部に感謝の心をもって美味しく食べていきたいと思った。
- 身近に農業を通してこのような活動をしている人がいる！という刺激になった。
- 土のpH等ぜひ調べたい。
- 畑部として一本筋が定まっていないことを改めて感じた。部員一人ひとりが、それぞれ主体になれるよう活動したい。チャレンジを恐れずに。
- ペットボトル田んぼ・・・工夫次第でどこでも野菜づくりができる。ペットボトルという発想が画期的だった。
- プログラムづくりでは、学生のうちに学ぶことができてとても幸いだった。今後様々な面で活かしていきたい。
- 山にも入ってみたい



大学生の考える未来計画

【その他】

- NPO法人山口里山環境プロジェクトから、食育プロジェクト終了後、畠部・山口地域センターと一緒に今後何か企画ができるか模索があった。
- 大学生の移動手段（バスの送迎等）を考える必要がある。

